



青き楓

島高だより
平成27年10月号
(通巻第115号)
長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

校長随想 湧水抄

「朝学」ノススメ

校長 北浦 剛 資



島高生の「S」は「Science」のS。学習には、いろいろなスタイルがあっいいい。

■家庭学習の実態は？

10月も「爽秋」の時期は瞬く間で、肌寒さを感じるようになった。これからだんだん布団が恋しくなり、朝起きづらくなる季節である。ところで、島高生の毎日の家庭学習はどのように行われているのか。部活動に疲れて我が家に着くや着替える間もなく家族が待つ夕飯の食卓へ。一服して新聞やテレビを眺めていると、思わずたた寝、家族に急かされ先に入浴、ホカホカ石鹸の香に寒さをしのぐ綿入れなどまとっていざ机へ、と勇む気持ちもすぐに萎え、いつの間にやら船を漕ぐ、……こんな姿が一般的かもしれない。各教科の先生の顔を思い浮かべ、「日々の課題」を机に広げてみたものの、時間にも体力にも限界があり、眠気との闘いは連敗に次ぐ連敗……。

■「朝学」3つの利点

眠い時には思い切って寝てしまうのがよい。その代わりに、目が覚めたらすぐに起き出す意志の強さが必要だ。「朝型学習」には3つの利点がある。まず、①熟睡した後だから眠気が取れ頭がスッキリしていること、次に、②家族はまだ寝静まっているので雑音がなく集中できること、さらに、③登校時刻は決まっているので追い立てられるように効率よく学習が進むこと。眠気をこらえ、ただノートに書き込むだけ、プリントの空欄を埋めるだけで、ほとんど頭に入っていない能率の悪い深夜の学習よりも余程いい。個人的にはもう一つメリットがある。夜と朝の間、つまり寝起きの前後は思考回路がニュートラルの状態になっていて、思いもよらぬ良いアイデアが浮かぶことが多い。熟睡により脳が十分に休養し、光や音の外的刺激もなく、脳内のあちこちと繋がりが弱くなっているのかもしれない。前日まで行き詰まっていたことが霧が晴れるように一気に解決する、など何度も経験した。朝が弱い人には向かないだろうが、いずれにせよ自分に合った独自の学習方法を確立することが大切だ。

11月の主な行事予定

1日(日)	開校記念日 ハイレベル模試(1年希望者) 大学別オープン模試(3年)	14日(土)	島P連秋季研修会 (13:40~ ホテル南風楼) 大学別オープン模試(3年~15日)
4日(水)	中学校保護者対象入試説明会(市内) LHR:情報モラルマナー教育	17日(火)	体育部活動生支援学習会(~19日) 期末考査時間割発表(2年)
5日(木)	中学校保護者対象入試説明会(北目) 県高校駅伝大会	21日(土)	土曜講座(1年) 全統マーク模試(3年~22日)
7日(土)	進研マーク模試(3年~8日)	24日(火)	期末考査(2年~27日) 期末考査時間割発表(1年)
9日(月)	授業公開(~11日) あいさつ運動(~13日)	27日(金)	センター試験50日前
10日(火)	中学校保護者対象入試説明会(南目) 登校指導(~12日)	28日(土)	土曜講座(2・3年)
13日(金)	学校評価(保護者回答締切)	30日(月)	修学旅行結団式(2年)
			* 第2回夜間学習会(3年12/7~12/18)

進路実現に向けて...



■10月9日(木) 3年生激励会

大学入試センター試験まで、残り100日を切りました。刻々と時間が過ぎる中、3年生は必死に受験勉強に励んでいます。また、一足早く推薦入試やAO入試を受験している生徒もあり、各々が進路実現に向けて正念場を迎えています。

会では異動した先生方からのビデオメッセージが流れた後、1・2年生から応援メッセージの色紙が、PTAからしおりと千羽鶴が手渡され、長丁場となる受験期を乗り切ってほしい、という全体の思いを届けました。



■10月13日(火)~23日(金)

第1回夜間学習会

3年生を対象に夜間学習会を実施しています。第1回は119人が参加しました。

19:00~22:00まで自学場所を提供し、可能な限り添削指導・質問に対応しています。なお、第2回は12月中旬に実施予定です(行事予定参照)。



「2015紀の国わかやま国体」報告

剣道競技少年男子 優勝

黒川 大樹(3年) 鶴浜 貴志(3年) 藤野 聖那(3年) 松崎賢士郎(2年)

剣道競技少年女子 優勝

藤崎 薫子(3年) 竹中 美帆(3年)
杉本 唯子(3年) 大園 望夏(3年)
堤 麻衣子(3年)

レスリング競技少年男子

グレコローマンスタイル 96kg級
5位 濱本 大徳(3年)
グレコローマンスタイル 50kg級
5位 金子 功誠(2年)

応援ありがとうございました!



理数科1・2年生研修旅行



この夏も、本校理数科の独自の行事である研修旅行が行われました。1年生は長崎総合科学大学(8/18~19)、2年生は崇城大学(7/22~23)との連携講座を受講し、大学の実験施設で先端の科学技術に触れ、科学的なものの見方や考え方、科学技術の基本原則について学びを深めました。



【生徒感想より(1年生)】

- 自分とそんなに変わらない世代の人達が社会のためになるものを作っていることが驚きで、とても憧れを抱いた。
- やりたいことがあっても、勉強しなければ出来ない。今回の研修を受けて、自分のなりたいもの、やりたいことを実現させるために頑張ろうと思った。
- 話をされている先生方の目を見て、「この先生方は本当に好きでいろいろな研究を行ったり、開発したりされているんだなあ」と感じた。
- ロボットのプログラミング作成では、やってみると思った通りに動かすことができず難しかったけれど、根気強くやって、成功したときは本当に嬉しかったです。
- 「電子網膜による視覚再生」の講義が面白かったです。目が見えなくなった人の目に、コンタクトのようなセンサーをはめ込んで視覚再生を試みるという発想がすごいなと思いました。

【生徒感想より(2年生)】

- 薬学部では「ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)によるDNAの増幅」の実験をしました。PCRとはごく少量のDNAから部分的に選択してある領域を増幅させることです。考古学やDNA鑑定などに応用されていることがわかり興味を持ちました。また、薬を調合する部屋や、漢方などの薬草を世界中から集めた部屋など、大学ならではの部屋を見学できて大変良い経験になりました。
- ナノサイエンス学科では、ナノサイエンスの応用範囲について知ることができました。また、ルミノール反応を用いた実験を行いました。この化学発光反応は警察でも血痕を調査するために利用されています。この技術が意外にもコンサートなどのペンライトと同じ技術であることには驚きました。世界の技術「ナノの物作り」はあらゆる産業で活躍できる技術だと思い、一層関心が深まりました。



乳幼児ふれあい体験

家庭科保育分野の授業の一環として「乳幼児ふれあい体験」を実施中です。赤ちゃん・お母さんボランティアの方々にご協力いただき、生徒たちは赤ちゃんとふれあい体験を通して命の大切さを実感しています。また、全員が妊婦体験をすることにより、自分が生まれた時のことに思いを馳せたり、「将来、自分が親になった時は…」と考える機会になったようです。



【生徒感想より】

- ★赤ちゃんを抱っこさせてもらったとき、最初は泣かせてしまったけれど、ふれあいの時間が終わる頃には、なかなか離れないうらいに慣れてくれました。笑顔がとても可愛くて嬉しかったし、お母さんにとって赤ちゃんがかけがえのない存在である理由がわかった気がしました。(女子)
- ★お母さん方から、出産時の陣痛の話や、赤ちゃんがミルクを飲まなかったり、夜泣きしたりして眠れないことが日常茶飯事だという話を聞き、とても苦労して赤ちゃんを育てられていることがわかりました。お母さんが大変な時に父親は何をすればいいのかわかったところ、「ただそばにいてくれるだけで安心する」とおっしゃっていました。自分が父親になったら、母親任せにせず、できるだけサポートしたいです。(男子)
- ★妊婦体験では、想像していたよりもはるかに重くてびっくりしました。また、お母さんたちはお腹の子に負担がかからないようゆっくり歩いたり、栄養のあるものを食べたりと、多くのことを心がけて生活していることを知りました。こうやって誰もが大切にされて生まれてきたのだと思うと、改めて命の重みを感じました。(女子)
- ★赤ちゃんがお腹にいる状態では、靴下ひとつ履くのも大変だということが体験してみてもよくわかり、夫や周囲の協力が必要だと思った。電車やバスの中などで妊婦さんを見かけたら、席を譲るなどして、自分ができる範囲で手助けをしていきたい。(男子)



保護者の皆様へ、御礼とお知らせです

10月2日(金)に学年PTA、進路講演会(2年生のみ)を行いました。お忙しいなかご出席いただき、ありがとうございました。欠席をされた保護者の皆様には、お子様を通じて当日の資料を配付しております。お子様の学校生活がより一層実り多きものとなりますように、今後ともご理解とご協力をお願いします。

平成27年度島原地区高等学校・特別支援学校PTA連合会秋季研修会
【11月14日(土) 13:40~17:40 於 ホテル南風楼】
『命を尊び思いやりを育むPTA活動のあり方』を大会テーマに、感動教育家・高光りようすけ氏による講演や、パネルディスカッションが行われます。詳細・出欠につきましては、10月7日にプリントを配付しておりますのでご確認ください。多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。